



平成20年度 尚綱大学入学式



「入学生宣誓」  
文化言語学部 文化言語学科  
日本文化・日本文学コース  
徳山 碧 (とくやま みどり)



第3号

発行 花桜会大学部会  
責任者 益田 理恵子  
熊本市榆木6-5-1  
096-338-8840

題字 小島曜子 (国文・2回生)  
印刷 (株)河田印刷

平成二十年三月十四日に第三十回目の尚綱大学の卒業式が挙行され、その時の文学部の卒業生は五十二名でした。「えー！少ない！」と驚かれた方もいらっしゃると思います。現在の在学学生数は二〇四名。これが尚綱大学の現状です。少子化の影響と高校生の文学部離れがあるのかもしれない。

卒業生の皆さんは、卒業後どのように過ごされていますか。大学で学んだことを活かした仕事に就いている人、全く関係のない仕事に従事している人、主婦業の人と、それぞれに力を発揮しておられることと思います。しかし、卒業後に新たにチャレンジして資格を取り、それを活かした職業に就いた人も少なからずいます。つい先日、英文学科を卒業して看護師の資格を取り、これから看護師として働きたいと輝くばかりの笑顔で報告に来て下さった方もおられます。そして一方では、昨年入学したばかりの一年生の中には、「私は日本コース(旧国文学科、

国語国文学コース)は本意ではない、リハビリをしたかったので、退学してもう一度専門学校に入学する。」と半ばで退学していった学生もおりました。

「文学部」は、世の中の役に立たない学部なのではないか。よい職業に就けない学部なのではないか。なんだか悲しい気持ちになりました。

しかし、文学を学ぶことは、私達の家庭生活や、その人の生き方、あるいは人と人との関わりにおいて、非常に重要な要素を有する学問だと言えるのではないのでしょうか。例えば、サン・テグジュペリの『星の王子さま』は、なぜ世界の多くの人々に読まれているのでしょうか。ただ挿絵がかわいいから、タイトルがよいから多くの人々に愛されているのでしょうか。そればかりではなく、これは王子様と狐の対話の申に、「この本の主題が置かれ、読んだ人の心に強く響くものがあるからだと考えられます。「肝心なことは目に見えない。心で見ると、狐が王子様に言い

ます。大切なものは何故目に見えないのでしょうか。目に見えない大切なものは、私達と対象との間に結ばれた関係、そして、その関係から生まれるものを掛け替えのないものにした。り、どうでもいいものにした。りする価値を指すのではないのでしょうか。この関係とか価値とかは、目に見えないものではありませぬ。何故なら、その存在と力とを認知するのは、私達の心の働きだからです。

皆さん、文学を学ぶ意義や楽しさを、もう一度思い出してみて下さい。

最後に狐が王子様に伝えた言葉を三つ挙げておきましょう。何かの時に思い起こしてみして下さい。

- 一 「大切なものは心で見なければ見えてこないこと」
- 二 「対象のために失った時間こそが、対象を掛け替えのないものにする」
- 三 「自分でなじみになつたものに対しては、ずっと責任があること」

文学を学ぶ  
楽しさ



文化言語学部  
文化言語学科  
荒尾 恭子 教授  
(楢原)



# 「なりたて自分 になるために」



尚子 吉村 (英文・8回生)

尚綱大学を卒業して22年が経ちました。その頃の自分が今の私を見たら、まず「なぜまだ結婚してないの!」と嘆き(笑)、「どうしてそんな仕事をしているの?」と驚くでしょう。生来の性格は変わりませんが、仕事を通して経験したことから、モノの見方や考え方は大いに变化したように思います。

大学を卒業して1年経った頃、縁あって、「月刊タウン情報クマモト」を発行している出版社に入社しました。特に文章を書くのが上手だったわけでも、音楽やアートに興味があったわけでもありません。毎日の仕事を通して、一生懸命、企画・取材・原稿依頼の仕方、写真の撮り方、原稿や校正のやり方などを学びました。30歳で編集長

になった時、企画の部署でこれまでのノウハウを生かすきっかけが与えられた時など、その時々に必要な課題が与えられてきました。

2年前に独立し、現在はフリーランスで情報誌・新聞で編集やライターの仕事、食・観光に関わる企画の仕事などをしていきますが、情報誌の仕事を通して得た全てのことが役立つと感じます。これまで多くの失敗を経て、私なりの「仕事の哲学」を心に刻んできました。その中には「当たり前」の事を大切にすることや、周囲にいる人を大切にすること「など」があります。そして今、

人生の哲学は仕事からだけでなく、友だちや家族との関係を通して学べるのだということがわかってきました。

もともと私は人と向き合うことが苦手な子でした。心に描いていたのは、幼稚園の先生になりたいというような職業への憧れより、「いつも人と心を開いて向き合える人間になりたい」ということ。そんな気持ちですが、多くの人と出会う機会が多い仕事を選ばせたのかもしれない。一緒に仕事をしている仲間たち・大切な両親・友人、そして初めて出会う人との関わりを通して、今日もなりたい自分になるための『修業』が続いています。

## 二科展入選作品



清田 喜久子さん (英文・3回生)

楡木キャンパス管理棟4F会議室に展示してあります。総会の折には是非ご覧下さい。

## 尚綱大学 日本語検定で「日本一」



日本語検定の2級に合格した釘田麻子さん(左)、小林茉莉香さん(中央)と、3級に合格した東綾子さん(熊日新聞より)

去る四月十一日の熊本日々新聞・夕刊でも紹介された様に、第二回日本語検定で尚綱大学が、大学部門一位の最優秀団体賞を受賞。主催者の日本語検定委員会から三月末、表彰状が届きました。検定は、昨年十月に実施され、四字熟語、慣用句、敬語など日本語に関する難問が出題されました。

釘田麻子さん(文学部四年)と小林茉莉香さんは二級に、東綾子さん(文化言語学部)は三級に合格。「まだまだ勉強です」今度は二級を目指したい」とそれぞれに意欲的です。

受検を呼びかけた畠山真一講師(日本語学)は、「就職の際、日本語系学部の学生も『日本語検定二級』などと履歴書に書けるようになった意義は大きい」と話しておられます。今後の学生の皆さんの活躍を期待しています。

## 恩師との出会い

鎌賀 美穂(英文・13回生)



### つれづれに

忘れもしない二〇〇四年の夏、私は夫と夏休みを利用してフランスへ旅行に出かけた。二人の頭の中は多くの旅の思い出で埋めつくされていたが、三週間ぶりに帰国した私たちを待っていたのは、恩師、谷脇敬二先生の死の知らせだった。翌日八月二十四日に葬儀が行われたが、私には先生のその安らかなお顔を前にしても、先生の死を受け入れることはできなかった。

先生との出会いは、たしか大学2年の時だったと思う。単純な私は、堀辰雄の『風立ちぬ』に出てくる病弱な節子に憧れ、彼女がいつも白樺の木陰で絵を描いていたことから「私も描きたい」と思ったのであった。油絵をやりたい者が私には指導者が必要だった。そこで大学の美術部を訪れたものの、その当時指導してくださる先生はいらっしゃらない状態でした。たたく事務所に相談したところ、谷脇先生を紹介してくださいました。私にとって未知なる谷脇先生の研究室の扉をノックするこ



# 「書道コースの過去・現在・未来」

文化言語学部 文化言語学科 書道コース主任  
林田 俊一郎教授

林田 俊一郎教授

尚綱大学に着任して22年目の春を迎えました。手入れの行き届いたキャンパスに今年も桜が咲き誇り、相変わらずの美しい光景です。書道コースの活動についてということですが、現在のかたちになるまで2度の変遷を経ています。前身である書道専修時代、そして今まで大きな役割を果たしてきた書道部のことも含めて話を進



めたいと思います。左図がコースの主な

活動です。これからもひとつひとつの活動を充実させ、新に加えるべきものは加え、進化し続けるコースでありたいと思います。これからもご指導、ご支援の程お願い申し上げます。又、近々卒業生の皆様にアンケートを予定しておりますのでご協



力の程、よろしくお願ひ致します。最後になりましたが、花枝会の益々のご発展を心より祈念いたします。

## 尚綱文化言語部より

### 尚綱大学書道コース グランプリ入賞

(社)日本書芸院・読売新聞社主催の第12回全日本高校・大学生書道展(学生書道のグランプリ)において、文化言語学部 書道コースが団体賞を獲得しました。応募総数9,653点。大学の部(約150校)でベスト10に入りました。授賞式は8月26日(日)に大阪商工会議所「国際会議ホール」で行われました。  
《個人の部》■書道展賞2名 荒牧志帆(3年)、追立真弥(2年) ■優秀賞13名



## (1) 文学部国文学科、書道専修

高等学校教諭一種「書道」の免許取得の為のカリキュラムが組まれていました。当初、書道専用の教室はありませんでした。数年後、教務委員になり時間割を担当して1号館の第7、8講義室を確保し、カーペット敷きにして貰いました。大学展(尚綱大学書道展)は市民会館、卒業展(卒業書作展)はギャラリーNTTでの開催でした。幸いなことに書道専修者の6~7割が書道部に在籍し、福島先生のご指導の下、意欲的に活動していました。行事としては夏合宿(2泊3日)、楡木祭作品展、熊目新人展などでしたが、加えて拓本取りや春合宿も行うようになりました。段々ハードになり大変だったと思いますが、本当に良くやってくれたと思います。この時代の下地があったからこそ、コース制への移行もスムーズに行っただけではないでしょうか。

## (2) 文学部国文学科、書道コース

熊先生、久多見先生との3人体制でスタートしました。当時、九州には福岡教育大以外には専門に書道を学べる所が無く、いかに充実したコースにするかというのが大きな課題でした。カリキュラムは、バランスを考慮し書道の科目を約3倍に増やし、コース活動の充実を図る為に各種委員会を作りしました。大学展も県立美術館・分館に移動し、卒業生作品展も併催にしました。作品制作もコースで取り組み、班別の練成会や仕上げの合宿も始めました。卒業も分館になりました。その他に、拓本取りや講演会の開催、中国書の旅の定例化など幅広く書道を学べる体制を整えました。

## (3) 文化言語学部文化言語学科、書道コース

新学部となり書道の科目は少し減りましたが、東アジア(中国、韓国)の文化や歴史、言語を学べるカリキュラムとなり、書道を多様な角度から捉えられるようになりました。さらに近年大学の活動が社会との接点を求められるようになり、コースとしての新たな取り組みも始めました。1月長崎書店ギャラリー、3月熊本赤十字病院内ギャラリーでの学外展、尚綱大学高校生書道展などです。また、国際交流の一環として書の旅で中国の大学を訪問し、交流会を行っています。

とは大変勇気のいることで、その扉に手をかけながらも、ノックするまでには多くの躊躇いの時間を要したことを覚えている。その後、先生は快く私の申し出を引き受けてくださり、以来、ほとんど毎日のように先生の研究室に通う日々が始まった。絵画の指導のみならず、西洋美術史、歴史、文学、哲学、音楽など様々な事を気の赴くままにお話して下さった。なかでも、先生がウィーンに留学していらしたことから、ウィーンについての話題は多く、「パルテール」とよばれる、オペラの安い立ち見席の確保の仕方とか、芸術家の集まるカフェのお話等々。その頃まだヨーロッパに行ったことのない私は、遠い異国の地と先生のダンディーなイメージを重ね合わせ、大いに思いをふくらませたものだった。これらすべての知識や物の考え方は、後の私の人生に大きな影響をもたらし、卒業後も関心は自然とヨーロッパへと向かった。

この限られた紙面で、先生との思いを語り尽くすことは不可能である。ここ保守的な熊本の美術界にあって一匹狼だった先生は、こつこつと一人で制作活動を続けてこられた。そして、一九九五年〜一九九六年にかけて、ウィーン幻想派の巨匠ルドルフ・ハウズナー教授からも認められた素晴らしいデッサン力をもって、ウィーン美術館「キュンストラーハウス」で展覧会を開催された。日本人では、東山魁夷に次いで二人目の快挙である。あれから多くの月日が流れ、先生は、もうこの世にいらつしやらず、私も結婚し、世の中も大きく変化したが、あの時、先生と過ごした時間は、私の生涯においてかけがえのない宝物である。多忙な中、先生が私のために費やされた時間はどれほどものになるだろうか。大学は何にもまして、教授と学生が出会う所である。優れた教授がいて、感受性のある学生と出会い、新しい価値を創造していくところである。尚綱のキャンパスで学んでいる後輩達にとって、彼らの大学生活が幸せで実りの多い、そして生涯の糧となる出会いのあることを祈っている。



# 平成十九年度 花桜会大学部会 総会報告

梅雨の晴れ間に恵まれた

六月三十日、榎

木キャンパス管  
理棟にて平成十  
九年度総会が開  
催されました。

十八年度の  
行事・決算・監  
査の各報告の  
後、十九年度の  
予算案提示・行  
事予定報告がな  
され、質疑応答を経て、出  
席者全員の前で閉会



しました。  
その後は、元熊本放送ア  
ウンサーで尚綱大学講師  
岩元克雄先生の講演が行わ  
れました。テーマは「話道  
のこころ」。

「話道」とは、  
先生の造語です  
が、柔道や華道  
がそれらを通し  
て人として生き  
る道を考えるよ  
うに、ことばを  
通して人として  
どう生きるかを  
考えるものです。

美しい日本語が使える、思  
いやりのある話法を身につ

## 観劇で感激!

けることを目指し、言刃(ことば)も  
なりうる言葉をどのよう  
に使うか? 日本語の持つ本  
当の力を使っているか? と  
いう、課題を投げかけ、ど  
う実践していけばいいのか  
を説いておられます。  
後半は、全員起立しての  
発声練習の後、一人ずつ自  
己紹介し、話し方のアドバ  
イス等頂き、学生時代に戻  
ったような、緊張しながら  
も楽しい時間を過ごすこと  
ができました。

富田仁子(国文・1回生)

# 平成20年度 花桜会大学部会総会のお知らせ

さわやかな初夏の季節となりました。会員の皆様にはおわかりなく  
お過ごしのことと存じます。  
さて平成20年度大学部会総会を下記のとおり開催致します。  
ご多忙とは存じますが会員の皆様のご出席を賜り、多数のご意見を  
ご聞かせいただきたいと思います。総会後は木内里美さんのお芝居を  
予定しております。当日は昼食(お弁当)をご用意しておりますので、ご  
家族、お友達をお誘い合わせの上、ご参加下さいませ。(お弁当の数をお  
知らせ下さい)  
※駐車スペースは充分にありますので車での乗り入れもできます。

【日 時】  
平成20年6月28日(土) 午後12時30分(正午受付)  
演劇は午後2時開演予定

【場 所】  
尚綱大学榎木キャンパス 管理棟4階  
【その他】  
出席の方は同封のハガキにて6月13日(金)までにお知らせ下さい。  
【問い合わせ先】  
〒861-8538 熊本市榎木6-5-1 花桜会大学部会(市川)  
【TEL】  
096-338-8840

これまでは、総会後、参  
加された方々に教養を深め  
て頂く為、講師の先生をお  
招きして講話を聴いて参り  
ましたが、今回は趣向を変  
え、大津在住のフリー舞台  
俳優木内里美さんのお芝居  
を観る事にしました。

人は、自分の感動したも  
のを他の人に伝えたいとい  
う本能を持っているようで  
す。そして今回、私は本能  
の赴くままに動いてしま  
いました。

昨年二月に彼女のお芝  
居を観た時、風刺のおもしろ  
さに大笑いしながらも涙  
がにじんできく不思議さ、

# Theちゃぶ台 やまとなでしこ —とめばあさん、今日も行く!—

【出演者】木内里美・上田衣里子(劇団きらら)

## 木内里美(きない さとみ)プロフィール

山形出身。劇団「SCOT」(旧早稲田小劇場)  
に入団。演劇集団「かもねぎショット」を  
経てフリーの舞台俳優となる。「マクベス」  
(主演:段田安則、南果歩)に出演。1人5  
役を演じ、好評を得る。04年熊本県に移住。  
ばあちゃんシリーズで活躍。07年、八代  
市民オペラ「アグネス」でネイタ役を好演。  
08年1月、東京こまばアゴラ劇場にて平  
田オリザの「となりにいても一人」に出演。



榎木屋の通ちか  
日本を救う!!



現代社会の持つ問題点の捉  
え方の適格さ、人間に対す  
るやさしさに感動しまし  
た。そして、  
その感動を同  
窓会の皆さん  
と共有したい  
という想いは  
日増しに強く  
なりました。  
費用人集めの  
難しさ等々、  
問題点はあり  
ます。しかし、  
あえてそれ  
を押し切り(私  
のわがまま  
でしようか?)  
上演する運  
びとなりました。  
どうか彼  
女にメッセージを体で感じ  
て下さい。皆さんの心の琴  
線に触れるものがたくさん  
あるはずですよ。  
せっかくなので、ご家  
族・お知り合いの  
方もお誘い頂き在  
学生も交えて多く  
の方々も感動を共  
にしたいと思っ  
ています。皆様のお  
越しをお待ちして  
おります。

花桜会大学部会長  
益田理恵子

(国文・2回生)

## 募金のお願

平成十八年度より尚綱  
大学は、「文化言語学部」  
及び「生活科学部」を新  
設し、それに伴い九品寺  
キャンパスに新校舎が建  
てられた事は周知の事と  
存じます。

花桜会大学部会では、  
後輩の育成を側面から  
援する為、一昨年より御  
寄附をお願いしておりま  
すが、まだまだ目標額には  
達しておりません。趣旨を  
ご理解頂き、御協力賜り  
ますよう、再度お願い申  
上げます。(同封の振り込  
み用紙をご利用下さい。)  
一口二、〇〇〇円です。

## 編集後記

先日、原稿のお礼も兼ね  
て、榎原先生の研究室を訪  
ねました。相変わらず、お  
優しく気さくで、生き生き  
とした様子。しまった!  
学生時代に先生のステキな  
ところをもっと盗んでおけ  
ばよかった…。「育ち」と  
「教養」は、一朝一夕には  
身につけません。実感して  
お部屋を後にしました。  
お忙しい中、原稿をお寄  
せ下さった皆様をはじめ、  
編集に関わって頂いた方々  
に厚く御礼申し上げます。